

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190600108		
法人名	株式会社 サンライズ		
事業所名	グループホーム ゆつつら〜と		
所在地	佐賀県武雄市武雄町大字富岡10101番地3		
自己評価作成日	平成28年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年3月30日	外部評価確定日	平成28年5月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立・快適・安心をグループホームゆつつら〜とのモットーとして、自然豊かな環境の中で、自立して「自分のペースで」「自分らしく」「快適に」「安心して」生活してもらえるように取り組んでいます。  
各棟の処遇理念を実践することにより、ゆつつら〜とのモットーがより実現するように努めています。  
介護計画については、個人の生活歴や生活スタイルを理解し、個々を大切に支援出来る様に努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、武雄市中心の商店街に程近い住宅街に位置し、傍には、桜の名所でも知られる武雄鍋島家の菩提寺も見えている。2ユニットの事業所は、傾斜地に上下して建てられており、それぞれの建物の中央にテラスを有する回廊式の設えである。事業所内はテラスからの光が360度届き、寛ぎの場所が多く作られている。理念には、ユニットごとに「安全・健康・信頼」と「安全・健康・オンリーワン」を掲げて、職員間の情報交換を密にしながら、一人ひとりにしっかりと目を向け、その人らしく快適に安心して暮らしてもらえるように日々の支援に取り組んでいる。食事の時には、職員も全員が一緒に食事をし、楽しいひと時となるように配慮している。また、居室には、湿度を確保するために、バケツに水を入れて置いたり、夜間の転倒防止の見守り用として小型のセンサーを置く等、随所に工夫と配慮が見られる。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで、自分らしく・快適に・安心して生活できるよう支援する。昨年度に引き続き、安全・健康・信頼を掲げ、実践に繋げている。	自立・快適・安心をモットーとして、自分のペースで、自分らしく・快適に・安心して生活出来る様に支援する。昨年度に引き続き、安全・健康・オンリーワンを掲げ、実践に繋げている。	A棟B棟それぞれに、利用者一人ひとりと信頼関係を築き、安心して暮らしてもらえる支援を目標とした理念を掲げている。事業所内に明示し、また、会議でも話し合っ、日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の方々と地域の祭りに参加したり、地区の回覧板を回してもらい、地域の情報がとれるようにしている。地域の草払い等にも参加している。地域の保育園児の訪問もあり、お遊戯や手遊び等で交流を図っている。又、ボランティア(ハワイアン・腹話術等)の方々と交流も図っている。	入居者様の方々と地域の祭りに参加したり、地区の回覧板を回してもらい、地域の情報がとれるようにしている。地域の草払い等にも参加している。地域の保育園児の訪問をあり、お遊戯や手遊び等で交流を図っている。又、ボランティア(ハワイアン・腹話術等)の方々と交流も図っている。	近隣の住民とは、利用者も顔馴染みで、散歩の時等に挨拶や言葉を交わしており、野菜や花をいただくこともある。自治会にも加入し、回覧板も届いており、地区の清掃活動にも参加している。地域の祭りに参加したり、2か所の保育園との交流も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症についての理解を深めてもらうよう、努めている。	運営推進会議にて、認知症についての理解を深めてもらうよう、努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、施設の行事や利用状況を報告、地域の情報を聴くことにより、サービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、施設の行事や利用状況を奉公、地域の情報を聴くことにより、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族の代表や区長、民生委員、行政職員等の参加を得て開催している。会議では事業所の運営状況や活動報告、情報交換等を行いサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当者の出席をお願いしており、事業所からの報告を行い、分からない事は、尋ねている。	運営推進会議に市町村の担当者の出席をお願いしており、事業所からの報告を行い、分からない事は、尋ねている。	主に法人の本部が行政との窓口を担っているが、管理者も運営推進会議等を通して、担当者との協力関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーを活用して、危険防止を図り、身体拘束のない施設づくりをしている。身体拘束委員会を毎月実施し、身体拘束についての理解を深めている。	センサーを活用して、危険防止を図り、身体拘束のない施設づくりをしている。身体拘束委員会を毎月実施し、身体拘束についての理解を深めている。	職員は会議や勉強会を通して、身体拘束の禁止行為や弊害を理解し、拘束のない支援に取り組んでいる。昼間、玄関は施錠しておらず、目配り、気配りとセンサーを活用し抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、身体拘束委員会を実施し、身体拘束への理解を深めている。外部の研修会に、参加し、他職員との勉強会を行っている。	毎月、身体拘束委員会を実施し、身体拘束への理解を深めている。外部の研修会に、参加し、他職員との勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名が、成年後見人制度を活用している。	現在1名が、成年後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書にて、分かりやすく説明している。変更時にも解りやすく説明している。	契約書・重要事項説明書にて、分かりやすく説明している。変更時にも解りやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護作成時や面会時に意見をきいている。通常も主任が電話等で家族への状況報告を行っている。	介護作成時や面会時に意見をきいている。通常も主任が電話等で家族への状況報告を行っている。	面会や電話の時に、繰り返し問いかけて、何でも言ってもらうように努めている。出された要望等は速やかに検討し、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ミーティング(職員会議)を実施しており、職員の意見を聞く機会を設けている。	毎月、ミーティング(職員会議)を実施しており、職員の意見を聞く機会を設けている。	管理者や主任は、毎月の職員会議や業務の中で職員の意見や提案等を聞き、法人の代表者にも伝達し、運営に反映させている。また、法人本部の担当者が、職員との面接を行い、意見や要望等を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職場環境・条件の整備に努力している。細目に管理者・職員との面会を持ち、要望を聞き取っている。	代表者は、職場環境・条件の整備に努力している。細目に管理者・職員との面会を持ち、要望を聞き取っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会を毎月行っている。	法人内での研修会を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来る様になっている。	佐賀県認知症グループホーム協会に入会しており、情報交換が出来る様になっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の入居相談後、入居前に自宅や施設を訪ね、本人にお会いし、現在の困りごと等聞きながら信頼関係の構築に努めている。	家族の入居相談後、入居前に自宅や施設を訪ね、本人にお会いし、現在の困りごと等聞きながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時等に管理者及び計画担当者が、現状の家族の負担や困りごとをお聞きし、事業所のサービス内容や費用について説明を行っている。	入居相談時等に管理者及び計画担当者が、現状の家族の負担や困りごとをお聞きし、事業所のサービス内容や費用について説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容によっては、様々な選択肢がある事を説明し、もっとも必要とされるサービスの紹介を行っている。	相談内容によっては、様々な選択肢がある事を説明し、もっとも必要とされるサービスの紹介を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に、毎日の洗濯物干しやたたみを行っている。利用者様同志でも、お互いをいたわられる良い雰囲気は出来ている。教えられる事やまだまだ出来る事の発見もある。	利用者と共に、毎日の洗濯物干しやたたみを行っている。入居者様によっては、縫い物や袋作り生け花などもしていただいている。利用者様同志でも、お互いをいたわられる良い雰囲気は出来ている。教えられる事やまだまだ出来る事の発見もある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とその家族の関係や気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感出来る様に、入居者様の日頃の様子を新聞等にて報告している。面会時は、居室や食堂でゆっくりと過ごしていただいている。	入居者様とその家族の関係や気持ちを傾聴し、悩みや喜びを共感出来る様に、入居者様の日頃の様子を新聞等にて報告している。面会時、近くを散歩してもらったり、受診に一緒に行かれる方もおられる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩等で馴染みの場所に出掛けたり、話題の中に盛り込んでいる。家族写真を持って来られている方もある。	ドライブや散歩等で馴染みの場所に出掛けたり、話題の中に盛り込んでいる。ご家族から電話があった時は、ご本人様とも話していただく様にしている。家族写真を持って来られている方もある。	職員は利用者の馴染みの人や場所を把握しており、散歩やドライブに出かけている。知人の訪問時には、湯茶を供して、ゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。お墓参りや法要への参加も家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席の位置に配慮している。職員は利用者との間に入り、話題を提供している。	利用者同士の関係を把握し、席の位置に配慮している。職員は利用者との間に入り、話題を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族からの連絡があったり、施設より近況を尋ねたりしている。入居相談に来られた方にもフォローしている。	退所された家族からの連絡があったり、施設より近況を尋ねたりしている。入居相談に来られた方にもフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いや意向を把握する様に努めている。意思疎通の困難な方は、普段の態度や表情にて意向を読み取る様に努力している。	利用者の思いや意向を把握する様に努めている。意思疎通の困難な方は、普段の態度や表情にて意向を読み取る様に努力している。	日常の会話や表情、入浴介助時の話から利用者の気持ちや希望等を把握することが多い。意思の疎通が困難な場合には、家族からの情報や表情等から本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの聞き取りにて、状況把握に努めている。1度・2度の聞き取りでは見えてこない所があるので、随時聞き取りを続けて行き生活の中に活かして行く様に努めている。	本人・家族からの聞き取りにて、状況把握に努めている。1度・2度の聞き取りでは見えてこない所があるので、随時聞き取りを続けて行き生活の中に活かして行く様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの1日の暮らし方を観察し、本人の出来る事、出来ない事、心身の状況を把握し、個々の1日のペースを大切にしている。	それぞれの1日の暮らし方を観察し、本人の出来る事、出来ない事、心身の状況を把握し、個々の1日のペースを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意見・かかりつけ医師の意見・ケアプラン評価や総合評価は介護職員や看護職員意見を聞きながら評価し、介護計画の原案作成を行っている。サービス担当者会議にて、再度検討し介護計画を作成している。	利用者・家族の意見・かかりつけ医師の意見・ケアプラン評価や総合評価は介護職員や看護職員意見を聞きながら評価し、介護計画の原案作成を行っている。サービス担当者会議にて、再度検討し介護計画を作成している。	利用者や家族及びかかりつけ医の意見を確認して、関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。毎月のモニタリングと、目標に合わせた定期的な見直しを行い、現状に即した計画で支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、計画作成担当者は大切なアセスメントとして、位置付けて情報の収集に努めている。	介護記録については、計画作成担当者は大切なアセスメントとして、位置付けて情報の収集に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス担当者会議は、本人の短期計画についてのサービス内容についての検討が多く、サービス内容が広がりがつつある。又、介護計画1の総合的な援助方針をしっかりと定める事で、サービスの対応の統一化を目指している。	サービス担当者会議は、本人の短期計画についてのサービス内容についての検討が多く、サービス内容が広がりがつつある。又、介護計画1の総合的な援助方針をしっかりと定める事で、サービスの対応の統一化を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災に関する連携で、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携はとれている。施設の近くの川良地区の運動公園で地域の高齢者の方との交流が出来る。	防災に関する連携で、避難場所を近隣のお寺にお願いしたり、地域の消防団との連携はとれている。施設の近くの川良地区の運動公園で地域の高齢者の方との交流が出来る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関だけでなく、以前からのかかりつけ医師への通院の方もおられる。以前からのかかりつけ医師との関係もスムーズに行っており、サービス担当者会議への照会にも応じてもらっている。	施設の協力医療機関だけでなく、以前からのかかりつけ医師への通院の方もおられる。以前からのかかりつけ医師との関係もスムーズに行っており、サービス担当者会議への照会にも応じてもらっている。	利用者や家族の希望される医療機関の受診を支援しており、主治医の変更も家族の希望でなされている。それぞれの医療機関と連携を図り、適切な受診ができるように支援している。協力医療機関からは月2回の往診が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康は職員全体で守ろうという意識が高く、日々の情報交換がしっかり出来ており、状態の変化を早期に発見出来ている。	利用者の健康は職員全体で守ろうという意識が高く、日々の情報交換がしっかり出来ており、状態の変化を早期に発見出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、職員が面会に行き、情報の把握を行っている。	利用者が入院した場合は、職員が面会に行き、情報の把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の方が重度化した場合における対応に関わる指針について、説明し同意を得ている。 緊急対応協力機関：新武雄病院	利用者の方が重度化した場合における対応に関わる指針について、説明し同意を得ている。 緊急対応協力機関：新武雄病院	契約時に重度化された場合の対応に関する指針を説明し、同意を得ている。今のところ、終末期の対応は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	武雄消防署員より、応急手当について研修を受けている。 夜間の緊急マニュアルも整備している。	武雄消防署員より、応急手当について研修を受けている。 夜間の緊急マニュアルも整備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練及び消火訓練を年2回実施している。 避難場所は近隣の明覚院の協力を得ている。	火災の避難訓練及び消火訓練を年2回実施している。 避難場所は近隣の明覚院の協力を得ている。	年に2回、消防団の協力を得て、昼夜の火災を想定した消火・避難誘導訓練等を実施しており、避難場所も近くの寺院に依頼している。しかし地域住民の訓練への参加協力を得るまでには至っていない。	勤務者の少ない夜間の避難誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得た訓練にも取り組まれることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、個々のプライバシーに配慮した言葉かけにて、対応するよう心掛けている。	職員は、個々のプライバシーに配慮した言葉かけにて、対応するよう心掛けている。	利用者の人格とプライドに配慮した言葉かけや対応を行っている。不適切な言葉かけ等があった場合には、管理者が注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、自己決定が出来る様支援している。	本人の意思を尊重し、自己決定が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分にペースで、自分らしく、快適に安心して生活していただける様に努めている。	自分にペースで、自分らしく、快適に安心して生活していただける様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整髪や外出時の服装のコーディネート支援を行っている。	朝の整髪や外出時の服装のコーディネート支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は個々の好き嫌いを把握している。栄養士が季節感のある旬の食材を利用したメニューを取り入れている。利用者の中には、お盆拭きをしたりしている。	職員は個々の好き嫌いを把握している。栄養士が季節感のある旬の食材を利用したメニューを取り入れている。利用者の中には、包丁を使う事が出来る方もおり、柿むき等一緒に行ったり、テーブル拭きやお盆拭き・食器洗いをしたりしている。	献立は、法人本部に所属する栄養士が、利用者の嗜好や希望等を考慮しながら作成し、利用者の咀嚼機能等に合わせた形状で提供している。食事の時には、職員も全員と一緒にテーブルを囲み、見守りながら食事をしている。また、食後には、利用者と一緒に食器洗いやお盆拭き等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により、1日1600kcalで献立が作成されており、個々の食事量や水分量のチェックをしており、食事及び水分の確保が出来る様に支援している。糖尿病の方には、主食cal調整しており、毎回ご飯の量を測り提供している。その方による食事形態を刻み食やミキサー食にて提供している。	栄養士により、1日1600kcalで献立が作成されており、個々の食事量や水分量のチェックをしており、食事及び水分の確保が出来る様に支援している。糖尿病の方には、主食cal調整しており、毎回ご飯の量を測り提供している。その方による食事形態を刻み食やミキサー食にて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き支援を行っている。又、協力歯科医院より、訪問してもらい義歯の調整など行ってもらっている。	毎食後、歯磨き支援を行っている。又、協力歯科医院より、訪問してもらい義歯の調整など行ってもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄リズムに合わせて、排泄介助を行っている。日中は2/3以上の利用者がトイレで排泄出来ている。	利用者の排泄リズムに合わせて、排泄介助を行っている。日中は2/3以上の利用者がトイレで排泄出来ている。	排泄パターンに合わせて、積極的に、トイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。夜間も利用者の機能に合わせて、動きに反応するセンサーを使う等し、可能な限りトイレやポータブルトイレでの排泄を支援している。下着も機能や季節に合わせて選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無を毎日確認している。水分補給や適度の運動の機会を提供している。	排泄の有無を毎日確認している。水分補給や適度の運動の機会を提供している。牛乳の温度も個々に合わせて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴機会を設けている。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴機会を設けている。	週2～3回の入浴を基本としているが希望があれば、連日でも可能であり、本人の希望時間や体調に合わせたタイミングで支援している。シャワー浴の場合には、脱衣室や浴室の気温に注意している。異性の職員が介助をする時には、利用者の心情に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで好きな時、好きな時間に休息してもらっている。	自分のペースで好きな時、好きな時間に休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理し、副作用等についての説明を職員に行っている。管理についてはマニュアルをすぐせし、事故防止に努めている。誤薬があった場合は、看護師に報告し医師より指示をもらう様にしている。	看護師が管理し、副作用等についての説明を職員に行っている。管理についてはマニュアルをすぐせし、事故防止に努めている。誤薬があった場合は、看護師に報告し医師より指示をもらう様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者個々の力量を把握しており、その人に合わせた役割作りを行っている。利用者個々の趣味への関心を示し、サポートしている。	職員は利用者個々の力量を把握しており、その人に合わせた役割作りを行っている。利用者個々の趣味への関心を示し、サポートしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉等への外出支援を行っている。又、天気の良い時は利用者の希望で近くにドライブや散歩に出掛けたりしている。	花見や紅葉等への外出支援を行っている。又、天気の良い時は利用者の希望で近くにドライブや散歩に出掛けたりしている。	天気の良い日には、積極的に散歩やドライブをしており、季節ごとの花見等にも出かけている。また、玄関先に椅子を並べて日向ぼっこを楽しむことも多く、玄関には日向ぼっこ用のベンチや椅子が見受けられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個人でお金を管理している人はいない。欲しい物があられる時はご家族へ連絡しお願いしている。	利用者個人でお金を管理している人はいない。欲しい物があられる時はご家族へ連絡しお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも自由に電話をしてもらっている。	希望があれば、いつでも自由に電話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁を利用して季節感をだしている。居間には、椅子・テレビを置いて楽しくテレビを視聴されている。	壁を利用して季節感をだしている。居間には、椅子・テレビを置いて楽しくテレビを視聴されている。	事業所内は建物中央のテラスを中心に回廊式になっており、寛ぎの場所が多く作られている。テラスからの光はカーテンで調整をし、臭気に対しても換気扇を常時使用して、不快にならないように配慮している。玄関には、季節を感じさせる花も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を活用することにより、一人でも気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせる環境が出来ている。利用者個々がマイペースで過ごされている。	食堂と居間を活用することにより、一人でも気の合った利用者同士でも思い思いに過ごせる環境が出来ている。利用者個々がマイペースで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、基本的には利用者本人の好みで自由にしてもらっている。本人が出来ない方には利用しやすい様に、心掛けて支援している。家族に写真等思い出になる物を持ち込まれている方もおられる。	居室は、基本的には利用者本人の好みで自由にしてもらっている。本人が出来ない方には利用しやすい様に、心掛けて支援している。家族に写真等思い出になる物を持ち込まれている方もおられる。	家族の協力も得ながら、利用者が安心して居心地良く過ごせる居室作りを支援している。居室には鉢植えの花や本、写真、時計、テレビ、カレンダー、飾り棚等が見受けられる。湿度を確保するためにバケツに水を入れて置いたり、レースのカーテンの開け方にも工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そっと、見守り観察しながら、必要な時に手助け出来る様にしている。	そっと、見守り観察しながら、必要な時に手助け出来る様にしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		○	1. ほぼ全ての利用者の
		○		2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○		1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○		3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○		3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○		1. ほぼ全ての職員が
			○	2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない